

経済性報告

経営の透明性、健全性向上を目指し、積極的な情報開示に努めています。

事業の概況

EC1

● 2009年3月期の業績

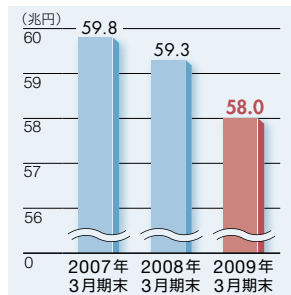
生保3社合算の契約業績（個人保険・個人年金保険）は、新契約高が5兆9,910億円（前期比△3.4%）、解約失効高は、5兆3,732億円（前期比+6.1%）となり、保有契約高は58兆971億円（前年度末比△2.1%）と減少しました。

損益関係（T&Dホールディングス連結）では、保険料等収入は、1兆6,544億円（前期比+2.6%）、保険金等支払金は1兆8,142億円（前期比+10.2%）となり、経常損失1,838億円（前期比△3,395億円）、当期純損失890億円（前期比△1,258億円）と、共に損失に転じました。

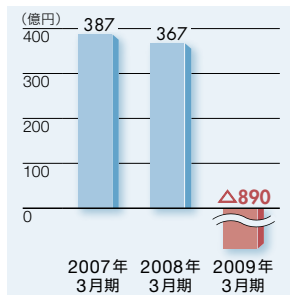
また、生命保険本業の期間収益を示す指標の一つである基礎利益は、生保3社合算で△270億円（前期比△1,868億円）となりました。

直近決算期の業績につきましては、T&Dホールディングスのホームページ（<http://www.td-holdings.co.jp/>）をご覧ください

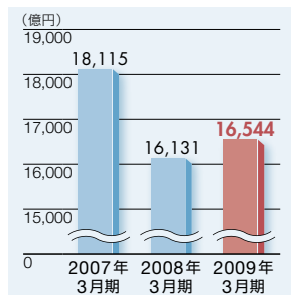
■ 保有契約高(生保3社合算)



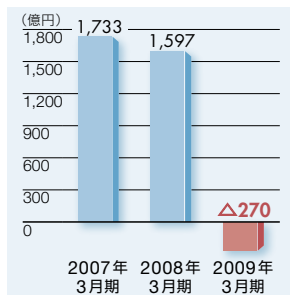
■ 当期純利益 (連結)



■ 保険料等収入 (連結)



■ 基礎利益(生保3社合算)



● 企業価値 (EEV)

T&D保険グループでは、生命保険会社の企業価値を表す指標の一つとしてEV（エンベディッド・バリュー）を開示してきました。2006年度末EVより、欧州の生

命保険会社を中心に導入が進んでいる「EEV（ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー）原則」に準拠したEV（以下、EEV）を開示しています。

このEEVの算出では、割引率、運用利回りにリスクフリー・レートを使用するなど、従来のEVの問題点を解消し、開示情報の透明性の向上を図っています。

■ T&D保険グループの企業価値

(単位：億円)

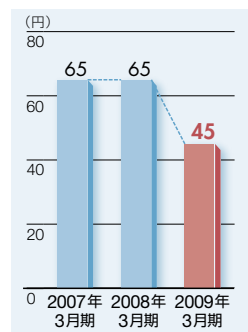
	2008年3月末	2009年3月末	増減
EEV	16,216	8,665	△7,551
修正純資産	10,571	5,353	△5,218
既契約の将来価値	5,644	3,311	△2,333
うち新契約価値	620	285	△334

詳細については、T&Dホールディングスのホームページをご覧ください

● 利益配分に関する基本方針

T&Dホールディングスは、当社およびグループ会社の経営の健全性維持に留意し、グループとして必要な内部留保を確保したうえで、株主価値の向上に取り組み、安定的な利益配分を実施していくことを基本方針としています。2009年3月期の1株当たり年間配当金は、前年より減少して年45円としました。

■ 1株あたりの年間配当金の推移



● ソルベンシー・マージン比率

保険会社の健全性を示す行政監督上の指標の一つであるソルベンシー・マージン比率^(注)は、十分な水準を維持しています。

■ ソルベンシー・マージン比率

(単位：%)

	2007年3月末	2008年3月末	2009年3月末
太陽生命	1,100.4	1,000.6	866.4
大同生命	1,320.6	1,096.3	823.4
T&Dフィナンシャル生命	1,189.7	912.4	832.0
ペット&ファミリー少額短期保険	19,841.6	17,561.0	4,212.7

(注) 通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「保険金の支払余力」を有しているかどうかを判断するための行政監督上の指標の一つであり、200%以上であれば、健全性についての一つの基準を満たしていることを示します。

新たな事業戦略の取り組み

● アセットマネジメント事業

T&Dホールディングスは、太陽生命と大同生命の関連会社であったT&DアセットマネジメントをT&Dホールディングスの直接完全子会社としました。これは生命保険事業に次ぐ中核事業ドメインとしてアセットマネジメント事業を位置づけるとの長期的な経営構想に基づくものです。

T&Dアセットマネジメントは、「長期にわたり顧客から最も信頼される運用会社として社会に貢献する」を経営の目標と掲げ、年金を含む機関投資家の資産運用と個人金融資産をベースとした投資信託の運用を両輪に、運用哲学と運用アプローチの一貫性を堅持するとともに、実際の運用においては常にクリエイティブな発想と柔軟な対応ができる運用会社を目指しています。例えば、成長著しい中国において環境関連事業を行う企業に投資する投資信託や、ロボット（コンピュータプログラム）による株式投資を行う投資信託などユニークな商品を提供しています。

● ペット保険事業

ペット保険市場は、飼育可能なマンションの増加などによるペット飼育頭数の増加、ペットを家族の一員と認

識することによる治療機会の増加など、社会的環境変化を背景に、今後も拡大が見込まれています。

T&Dホールディングスは、2007年1月にペット&ファミリー少額短期保険を子会社化し、ペット保険市場での事業拡大を目指しています。

ペット&ファミリー少額短期保険は、「コンパニオンアニマルとして、人とペットとの絆を大切にしたい」という飼い主の皆さまの願いに応え、ペットと共に健康で潤いのある生活を支援する最良のペット保険とサービスの提供を通じて、社会に貢献することを目指しています。

2008年10月には、「シンプルで分かりやすい」をコンセプトとした新商品、ペット医療費用保険「げんきナンバーわん」を発売し、また11月からは、ペット保険を扱う少額短期保険業者として初めて、インターネットで契約締結を完結できる仕組み（Web申込）を提供しました。さらに2009年8月からは、「加入前健康診断の必要年齢」および「Web申込の上限年齢」を緩和する等、お客さま満足度とサービスの向上に努めています。



「ペット保険」パンフレット

格付け

T&D保険グループの生保3社は保険金支払能力に関する格付けを取得しています。

(2009年10月15日現在)

格付機関	太陽生命	大同生命	T&D フィナンシャル 生命
スタンダード・アンド・プアーズ (S&P)	A-	A-	
日本格付研究所 (JCR)	A+	AA-	A
格付投資情報センター (R&I)	A+	A+	A+
フィッチ・レーティングス (Fitch)		A	
ムーディーズ・インベスターズ・サービス (Moody's)	A2		

免責事項：格付けは、格付機関の意見であり、保険金の支払いなどについて何ら保証を行うものではありません。また、ある一定時点での数値・情報などに基づいたものであるため、将来的に変更される可能性があります。格付機関は、内閣府令で定められている指定格付機関であり、格付けの定義は、各格付機関が公表しているものです。格付けの後に付加されている「+」「-」の記号や「2」などの数字は、同じ格付等級内での相対的な位置を示しています。

格付けはすべて、生保3社が正式に格付機関に評価依頼し取得したものです。

■ 格付けの定義

● スタンダード・アンド・プアーズ (S&P)

〈保険財務力格付け〉

A：保険契約債務を履行する能力は強いが、上位二つの格付け (AAA・AA) に比べ、事業環境が悪化した場合、その影響をやや受けやすい。

● 日本格付研究所 (JCR)

〈保険金支払能力格付け〉

AA：債務履行の確実性は非常に高い。
A：債務履行の確実性は高い。

● 格付投資情報センター (R&I)

〈保険金支払能力格付け〉

A：保険金支払能力は高く、部分的に優れた要素がある。

● フィッチ・レーティングス (Fitch)

〈保険会社財務格付〉

A：支払能力は高い。支払いの中断・停止の可能性は低く、保険契約者債務やその他の契約債務を遅滞なく履行する能力は高い。しかし、事業環境・経済環境の変化によって受ける影響は、上位格付けの場合よりも大きい。

● ムーディーズ・インベスターズ・サービス (Moody's)

〈保険財務格付け〉

A：支払能力が良好である保険会社に対する格付け。しかし、将来のある時点において、支払能力に影響を及ぼしうる要因がある。